

# 【翻刻】御幕奉行代々記（二二〇—〇〇七〇）

## 〈凡例〉

- ・旧字体や異体字は原則として新字体に改め、適宜読点を付した。
- ・■は虫損・破損等による判読不能箇所を示す。

## （表紙）

「御幕奉行代々之記」

## （中表紙）

「享保之初方

御幕奉行代々記」

享保之初方

福王忠左衛門

野沢源左衛門

竹内新五兵衛

清水権左衛門

余語源次郎

坂部市平

難波田善左衛門

伊吹市右衛門

森武太夫

朝比奈弥兵衛

加藤久太夫

杉山七左衛門

右御幕奉行被 仰付候、高其外委敷書留無之候

一、高百五拾俵

沢 平吉

一、高式百拾六石余

石川兵左衛門

奥御右筆方

一、高三百俵

跡部与市郎

正徳六申年十一月廿日、御幕奉行被 仰付候

一、高式百五拾俵

海野新左衛門

右四人二而享保二酉年頃迄御幕奉行相勤申候

〔朱書〕「享保九辰年七月十四日、御役扶持拾人扶持被下候由被仰渡候」

弘方御納戸方

一、高式百俵 御役扶持拾人扶持

三橋勘兵衛

享保十八丑年七月二日、御幕奉行被 仰付候

右同断

一、高式百五拾俵 御役扶持同断

横山源五郎

元文四未年四月朔日、御幕奉行被 仰付候

御広敷御用達方

一、高式百俵 御役扶持同断

神谷清太夫

元高七拾俵五人扶持、御足高百五俵

跡部与市郎跡

延享三寅年四月 御幕奉行被 仰付候

御勘定組頭方

一、高不知 御役扶持同断

吉岡四郎右衛門

寛延四未年四月二日、御幕奉行被 仰付候

一、高百五拾俵 御役扶持同断

小普請方

伴 善太夫

宝曆五亥年十二月廿四日、御幕奉行被 仰付候

西丸御膳所御台所頭方

一、高式百俵 御役扶持同断

田中弥五人

元高式拾俵式人扶持、御足高百七拾俵

横山源五郎跡

明和元申年十二月四日、御幕奉行被 仰付候

御材木石奉行方

一、高式百俵 御役扶持同断

大柳八左衛門

元高四拾俵式人扶持、御足高百五拾俵

伴善太夫跡

明和四亥年二月六日、御幕奉行被 仰付候

大御番方

一、高三百石 御役扶持同断

石野平次郎

大柳八左衛門跡

小普請方

一、高百五拾俵五人扶持 御役扶持同断

岡田平三郎

安永二巳年十二月六日、御幕奉行被 仰付候

西丸御右筆方

一、高式百俵 御役扶持同断

吉松伊兵衛

岡田平三郎跡

安永五申年三月十八日、御幕奉行被 仰付候

御腰物方方

一、高七百三拾五石余 御役扶持同断

国領市左衛門

吉松伊兵衛跡

安永九子年十二月廿一日、御幕奉行被 仰付候

御右筆方

一、高式百俵 御役扶持同断

杉宗右衛門

石野平次郎跡

天明四辰年十二月

■(二九日方)

御幕奉行被 仰付候

蓮光院様御用達方

一、高式拾俵式人扶持 御役扶持同断

大野左門

杉宗右衛門〔跡〕

天明八申年九月五日御幕奉行被 仰付候、先役式百俵高二而

■(相方)

勤候処、御幕奉行被 仰付候砌方御足高上ル

大御番方

一、高式百石

長谷川藤太郎

元高五拾石、御足高百五拾俵

国領市左衛門跡

寛政三亥年六月九日、御幕奉行被 仰付候

御広敷番之頭

一、高百俵

■(武方)

人扶持 御役扶持同断

小知三右衛門

元高六拾俵、御足高四拾俵

長谷川藤太郎跡

寛政五丑年七月十日、御幕奉行被 仰付候

御納戸方

〔二、高三〕百俵 御役扶持同断

西尾忠四郎

小知三右衛門跡

寛政六寅年五月十三日、御幕奉行被 仰付候

御広敷番之頭方

〔二、高〕貳百石 御役扶持同断

本多金左衛門

西尾忠四郎跡

寛政九巳年〔正〕月晦日、御幕奉行被 仰付候

西丸表御右筆方

一、高五百石 御役扶持同断

蜷川善九郎

享和四子年正月廿一日、御幕奉行被 仰付候 大野左門跡江

小普請組小浜長五郎支配

一、高貳百俵 御役扶持同断

高木善次郎

文化八未年閏二月十三日、御幕奉行被 仰付之 本多金左衛門跡

御書物奉行方

一、高貳百五拾俵 御役扶持同断

野田彦之進

文化十四年十二月廿六日、御幕奉行被 仰付之 蜷川善九郎跡

御簾中様御用達方

一、高百五拾俵 御役扶持同断

村山栄蔵

文化十一戌年十月十日、御幕奉行被 仰付候 高木善次郎跡

西丸御膳所御台所頭方

一、高式百俵 御役扶持同断

前原八十郎

元高四拾俵式人扶持、御足高百五拾俵

村山栄蔵跡

文化十四丑年四月十八日、御幕奉行被 仰付候

御畳奉行方

一、高式百俵 御役扶持同断

吉見定右衛門

元高四拾俵、御足高百六拾俵、文政五年

十一月廿七日、前原八十郎跡御幕奉行被 仰付候

大御番酒井大和守組方

一、高四百俵 御役扶持同断

佐野喜右衛門

文政六未年四月十四日、野田彦之進跡

御幕奉行被 仰付候

小十人組 与頭方

一、高三百<sup>(石也)</sup> 御役扶持同断

鈴木善左衛門

元高式百式拾石、御足高八拾俵、文政十亥年十一月廿一日、佐野喜右衛門跡

御幕奉行被 仰付候、天保十亥年五月晦日、二丸御留守居被 仰付候

御勘定

評定所留役方

一、高百五拾俵 御役扶持同断

山田周蔵

元高三拾俵三人扶持、御足高百五俵、文政十一子年四月二日、吉見定右衛門跡

御幕奉行被 仰付候

二条御蔵奉行方

一、高百五拾俵 御役扶持同断

石寺八蔵

元高五拾俵三人扶持、御足高八拾五俵、天保七申年六月廿七日、山田周藏跡  
御幕奉行被 仰付、同年十二月廿二日、病氣二付願之通小普請入被  
仰付候

漆奉行方

一、高百五拾俵 御役扶持同断

中村又左衛門

本高七拾俵三人扶持、御足高六拾五俵、天保八酉年三月廿二日、  
石寺八藏跡御幕奉行被 仰付、同十四卯年 月 日、  
焼火之間番組頭被 仰付候

尾張殿附方

一、高式百俵 御役扶持同断

新靱三右衛門

本高七拾俵五人扶持、御足高百五俵、天保十亥年六月五日、  
鈴木善左衛門跡御幕奉行被 仰付、同十二丑年六月  
十八日病死

西丸御台所頭方

一、高式百俵 御役扶持同断

中村藤左衛門

本〔高〕 御足高 天保十二丑年七月 日

〔新靱〕三右衛門跡御幕奉行被 仰付、同十三寅年 月二日  
思<sup>(右有也)</sup> ■ ■ 之小普請入被 仰付候

新御番方

一、高四百俵 御役扶持同断

石津九兵衛

天保十三寅年九月四日、中村藤左衛門跡御幕奉行被  
仰付、安政五年五月 日、老衰二付願之通小普請入被

仰付候

西丸御膳奉行方

一、高式百俵 御役扶持同断

森川兵助

天保十四卯年十月十五日、中村又左衛門跡御幕奉行被

仰付、安政六未年七月五日、御裏門切手番之頭被

仰付候

御勘定方

一、高百五拾俵 御役扶持同断

加藤権之助

本高三拾式俵三人扶持、御足高百三俵、安政五年六月

十日、石津九兵衛跡御幕奉行被 仰付候

奥御右筆方

一、高式百俵 御役扶持同断

山木邦次郎

本高三拾俵三人扶持、御足高百五拾五俵、安政六未年七月

五日、森川兵助跡御幕奉行被 仰付候